

質問4. 所属する学会について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	神経学会、cell death学会、神経病理学会、
※	日本栄養食糧学会
※	日本時間生物学会
※	実験動物学会
※	日本生物物理学会、アメリカ生物物理学会、日本生理学会
※	日本バイオインフォマティクス学会、日本化学会
※	日本応用動物昆虫学会
※	進化学会、比較内分泌学会
※	日本植物学会
※	日本蛋白質科学会
※	日本ゲノム編集学会日本ゲノム微生物学会
※	日本基礎老化学会
※	日本放射線影響学会日本宇宙生物科学会
※	日本獣医学会
※	日本小児内分泌学会 など

質問5-2. シンポジウムについて <複数回答可> (テーマが偏っている)

回答者 番号	テーマが偏っている記述
※	からこそ、シンポジウム内容と会場がマッチせず、あふれる程人がいたり、閑散とした会場が有ったりするのではないしょうか
※	同じようなテーマが多かった

質問5-6. シンポジウムについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
	記述なし

質問6. ワークショップについて <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	今年は特に一般演題からの採択が少なかったような気がします。それも内容というかテーマに偏りがあるからでは無いでしょうか。
※	ワークショップの間にコーヒープレイクがあった方が良い。
※	参加したいワークショップが重なっている場合がある
※	同じ時間帯に似たテーマがあり、参加するシンポジウムに迷った。

質問7. ポスターディスカッサー制について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	自分のセッションではディスカッサーが来たのか来てないのか判りませんでした！？
※	ポスターでも座長進行で5min発表+質問とかがあったら良いなと思いました。
※	ディスカッサーの有無と議論の盛り上がりはあまり相関していない気がした。
※	見てまわりたいポスターによってディスカッサーの時間と関係なく回らないと時間が足りない。
※	時間通りに全く進んでいなかったように思う。最初の方のポスターで議論が長引くと、順番の最後の方の人はかなり待たされることになる。
※	ディスカッサー制度の必要性がそもそも感じられなかった。
※	ディスカッサーがいらっしやらなかった
※	ポスター賞があった方がよかった。

質問8. 一般演題全般について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	最終日の午後のワークショップは人が少なかったので、午前中のポスター発表を午後に回して、午前中にワークショップをした方が良かったと思う。
※	デジタルポスターを導入して、もっと効率的にポスターを見ることができるようしてほしい。
※	最終日午後に新学術共催がかたまりすぎている。
※	ポスター会場が発表者数に対して狭く感じた

質問9. 年会会期中の各日のタイムテーブルについて(※) <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ポスター発表は夕方が良いのでは？
※	どうしても日本語に偏りがちな国内の学会において、英語のみで行うセッションが開催されたことはよかったと思う。
※	ほとんど日本人しかいないのに、英語でやりとりを行っていたため、いくつかのセッションで、発表者と質問者のやりとりが噛み合っておらず、結局日本語での質疑応答となるような場面も多々見られた。それであるのであれば、初めからナンセンスな英語化の取り組み自体を廃した方が良い。
※	昼食後から夕方までの時間が長く、時間を若干持て余し気味になった。午後にワークショップ、夕方にポスターの方が良い。
※	英語しかついていけない学生にとっては英語によるセッションなどはばらけていた方が聞きに行きやすかったと思う。予算の関係で全日程出席できない場合もある。
※	2日目だけ英語デーであることは、このアンケートで初めて知った。2日目だけに設定するのは、日本語が分からない方々に対する差別だと思う。基本的には英語で開催すべきであり、英語で発表することは自信にも繋がる。せめて、日本語/英語の選択はワークショップ担当者が決めるべきである。日本分子生物学会は、とりわけ日本語の発表が多すぎて不満を感じている。
※	最終日以外のポスターの時間は良かったですが、最終日のポスターが午前中であつたため、開始時間の直前に貼られ直後にははがすことになりました。そのため、見たかったポスターすべてを見ることはできませんでした。

質問10. 年会の特別企画について、良かったと思うものにチェックしてください <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	よくないものを伝える場はないのか

質問11. 企業展示会・バイオテクノロジーセミナーについて <複数回答可> (要望・その他)

回答者 番号	要望・その他記述
※	以前は常連だったメーカー(〇〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇など)が出展しないなど年々活気がなくなっている気がする
※	企業の方が無理やり引き込もうとしたり、紙を渡すのはやめてほしい。
※	企業展示に関して、例年よりも盛り上がり欠けていたと感じる。
※	各企業がどのような内容のものを力を入れて説明・展示しているのか事前にもっと分かるようにしてほしい。
※	学会参加証の名札と一緒に送られてきた「名刺カード」のようなものが全く使えなかった。どの企業ブースに行っても、この情報では足りない、と言われ、結局、ラボの詳細な情報をいちいち記入しなければいけなかった。

質問12. ITシステム(WEBシステム・アプリ)についてお聞きします <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ポスターのディスカッサーの時間がアプリでは分かりにくく、アプリだけを頼りにすることはできなかった。
※	マイルスケジュールがセッション、演題ではなく、シンポジウム、ワークショップ、バイオテクノロジーセミナー、ポスター発表等で分けて表示できると見やすかった。
※	起動するとまずアップデートしようとしています。ポスター会場で確認のためにアプリを立ち上げ、うっかりアップデートが始まってしまうとしばらく使えません。
※	更新が頻繁だと調べたい時に調べられない

質問13. ITシステム(WEBシステムまたはアプリ)・年会プログラム集(冊子版)・ポケット判プログラム(会場受付等に置いていたミニサイズの折り畳んだ紙製のもの)の使用状況について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	ITシステムでは時々回線の具合なのか、システムの問題なのか遅いときが出てくるし、全体把握がしにくいので冊子版も欲しいところ
※	ポケット判プログラムを、年会プログラム集(冊子版)と同時に発送してほしい。
※	会期中はポケット判プログラムが役に立ったので、今後も事前送付してほしい(一般のプリンタではPDF版を最大解像度でポケットサイズに印刷しても、小さい文字が綺麗に印刷できない)。

質問14. 本年会の開催形式(単独開催・他学会協賛形式による連携※)について <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	良くわからなかった

質問15-3. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (協賛形式の連携が可能な学会)

回答者 番号	協賛形式の連携が可能な学会記述
※	生物工学会、ゲノム微生物学会、環境微生物学会、微生物生態学会、細菌学会
※	学会という垣根があることがもう古いと感じる。
※	日本バイオインフォマティクス学会

質問15-6. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (合同開催が可能な学会)

回答者 番号	合同開催が可能な学会記述
※	神経科学会
※	生物工学会、ゲノム微生物学会、環境微生物学会、微生物生態学会、細菌学会

質問15-8. 今後の年会の開催形式についてお聞きます <複数回答可> (その他)

回答者 番号	その他記述
※	連携によってシンポジウムやワークショップの内容の幅が広がるため連携自体に賛成である。また国外の学会と合同で日本国内で国際学会が開催されると英語の苦手な私にも参加しやすいのでうれしい。
※	年ごとに連携や合同開催する相手を変え、毎年新鮮さを感じられるようにしてほしい。

質問16. その他、年会全般についてのご意見があればお書きください

回答者 番号	意見記述
※	ほとんどの参加者は日本人である国内学会であり、少なくともワークショップの完全英語化は不要。英語デーも不要。同時帯の英語のワークショップよりも日本語のワークショップの方が明らかに聴衆が多いことから、日本語による発表への強いニーズが現れていた。
※	神戸-横浜-神戸-横浜-福岡のローテーションを、神戸-横浜-福岡にして、福岡開催の頻度を上げてほしい。
※	来年から全口頭発表を英語するにすると聞いたが、日本人同士で英語を喋ることの滑稽さと、母国語で情報交換を密にできる場は貴重だと考えているので、個人的には反対。
※	要旨集の前面にある通り、本学会からは「大いに飲んで」議論を深めようという意図が感じ取れます。これは学術的な議論に宴会・飲酒が必要不可欠であるとのメッセージとして受け取れます。単に、福岡の名産品を楽しんで大いに議論する、とすれば必要十分である箇所にわざわざ飲酒を掲載する意味はありません。明らかに前時代的な価値観であり、後世に残すべき態度ではありません。
※	ほとんど日本人しかいないのに、英語でやりとりを行っていたため、いくつかのセッションで、発表者と質問者のやりとりが噛み合っておらず、結局日本語での質疑応答となるような場面も多々見られた。それであるのであれば、初めからナンセンスな英語化の取り組み自体を廃した方がよい。国際化を本当に進める必要があるのか、学部生や院生などの参加も多く、無理に英語化を進める必要があるのか？甚だ疑問である。海外からのゲストの招待講演のみ英語や期間内のうち限定しての英語化は支持するが、参加者の9割以上が日本語を話す学会で、あえて英語化を進める必要はないと感じた。
※	協賛企業の企業スペースに行って話しを聞く人が減少している点と、ランチョンセミナーでお弁当を食べられる人が限られ、昼ごはんを買いに外に出ている人が多い点を考慮すると、低価格でも、お弁当が食べられる会場が欲しいと思います。スクリーンには、複数のスポンサー企業のPR映像(CM)を順番に流してもらうか、スポンサー側のフラッシュトークを順番に行って頂いてもよい。単独でランチョンセミナーを開催できないがPRしたい企業と、少しお金を出しても、お弁当が食べたい参加者の要望に応じて欲しい。
※	会場の入れる人数に制限があり聞きたいが参加できないワークショップがあったので、何かしらの対策が必要と感じた。
※	海外からの発表者の参加が増えることはいいことだと思うが、英語開催が増えると異分野の研究成果を気軽に聞くことのできる分生の魅力が少し減ってしまうので日本語発表と英語発表のバランスをとってくれると嬉しいです。
※	会場アクセスが不便でした。
※	クロークはポスター会場とワークショップなどが行われる会場を行き来する際に通る2階のものも常時開けていて欲しかった。毎回受付の奥のクロークしか使用できないのは不便だった。また、受付に英語が通じないのは如何なものかと。留学生が受付をする際に手伝わないと誰も手を貸してくれていなかった。また、学生は無料だと言って連れて行ったにも関わらず、会費を払うように言われたと聞いている。コミュニケーションが上手いかなかったのかもしれないが、きちんと説明や案内が出来るよう、書面でもいいから英語版を用意しておくべき。
※	Late-breaking Abstractsが、ポスター発表の同一テーマとオンラインプログラム上では並べられていたが、会場ではLate-breaking Abstractsで固められていた。4日間同じ番号を使うため柔軟に対応できないのかもしれないが、会場でも同一テーマは近い場所にあるとよかった。
※	昼食の提供の仕方(出店)およびその内容には非常に不満が多かった
※	英語の発表が増えるのはいいことですが、英語が苦手な人同士で英語で議論するとよくわからなくなっていたので、その場合は日本語で議論するようにした方がいいと思う。